

# 保育者養成における歌唱指導 『コールユーブンゲン』修得過程の一考察

笠井 キミ子      久原 広幸      柴田 万代      仲野 美絵

## A Study about the Acquisition Process of the Song Guidance “CHORÜBUNGEN” in Nursery Teachers Training

Kimiko Kasai    Hiroyuki Kubara    Mayo Shibata    Mie Nakano  
(2012年11月30日受理)

### I. 研究目的

本論文は保育者養成校の歌唱力育成の基礎指導について考察し、研究紀要第44号掲載の一保育者養成における歌唱指導についての一考察『コールユーブンゲン』指導の調査・分析—においての研究をさらに深めていくものである。その前回の論文では『コールユーブンゲン』での受講者の苦手とした音程、リズムについて分析し、その指導法について研究した。

そこで今回は、受講者は音楽経験が様々であることから個々に合った指導をしていくことと、意欲を失わずに学び歌唱力をつけることを念頭に置いた。

『コールユーブンゲン』を学ぶ過程で授業計画から指導していく中での、指導者と受講者との両立場からの状況を把握すること、また、グループ指導での担当する指導者同士で指導法の確認をすることを目的として研究を進める。

方法として、指導者、受講者の課題習得に対しての記録、アンケート調査などの資料により、分析し、意見交換をし、考察する。そこで、指導者の指導意識を高めることで、指導法、授業内容を深めて

いきたい。

注※本論文では『コールユーブンゲン』の指導者に対しての被指導者を受講者として進める。

### II. 『コールユーブンゲン』の授業計画

#### (1) 1年次「基礎声楽」前期15回

表1 『コールユーブンゲン』15回分の指導を示す。

(他、指導内容は理論、子どもの歌の歌唱指導。)

#### (2) 1年次「音楽Ⅰ声楽」後期15回

表2 『コールユーブンゲン』10回分の指導を示す。

(他、指導内容は理論、子どもの歌の歌唱指導、11回～15回合唱指導。)

以上の表1、表2について、進め方と目標とした点をあげる。

入学後に設定した『コールユーブンゲン』の課題曲をグループ指導と個人指導をしながら歌唱力を付けていく。特に理論的理解や発声について、また1回ではあるが専門家のビデオ鑑賞時間を設定してリズムの理解を深めている。

表1 前期「基礎声楽」『コールユーブンゲン』15回分の指導内容

授業回数	1回目	2～7回目	8・9回目	10回目	11～14回目	15回目
指導内容と コールユーブ ンゲン課題	課題(3曲)を一人 で読譜及び歌唱 8a,19d,23b	グループ授業で毎回5 曲程度(計28曲)を指導 19a,b,d,f,20b,23a,e,25b,c 26b,c,d,e,g,27a,d,28a,b, 29a,b,30e,31a,c,33a,e, 34a,b,35b	課題(1曲)を 一人で歌唱 29b,26c,28a	グループ授業 で7曲を指導 36d,37a,b, 39a,c,e,f	毎回3曲の課題を 一人ずつ個人指導 25b,26b,d,e,27a,d2 9a,b,31a	課題(1曲)を 一人で歌唱 26b,27a,d,29a 31a

表2 後期「音楽Ⅰ声楽」『コールユーブンゲン』10回分の指導内容

授業回数	1回目	2回目	3回目	4～9回目	10回目
指導内容と コールユーブ ンゲン課題	グループ授業で 6曲を指導 28h,33b,37a,b, 39c,d	ビデオ鑑賞 (リズムについて)	グループ授業で 7曲を指導 40a,b,c,41a,43a, 43b,43e	毎回2曲(6回目は1曲)の 課題を一人ずつ個人指導 33b,37a,b,39c,d,40c,41a, 43b,43e	課題(1曲)を一人で歌唱33b, 41a, 43b, 43e
				受講者は各課題について 修得状況を用紙に記録す る※1	課題に対しての取り組み※2

前期後期の課題9曲ずつについては個別指導をしていく。そして個々に修得状況(各曲に対する、練習時間日程、練習で気をつけた点、学んだ点、特に注意した箇所、工夫)を記入、自学自習の徹底を図る。

この授業計画による、修得状況記録の合格に至るまでの各曲の練習時間、回数(過去3年間)を概要として示す。2010年～2012年前期までの1曲あたりの練習時間と練習回数の平均値を算出した結果、平均練習時間は51.13分で平均練習回数は2.92回という結果となった。

課題曲後期分について3曲を設定、1曲を一人ずつ歌って分析する。(3曲中の1曲は無作為に選曲)

さらに3曲の修得状況を受講者、指導者共に記録した。記録は記述と楽譜へのメモ、そして録音を実施した。

### Ⅲ. 調査

- ・対象 幼児保育学科1年次
- ・対象授業・人数 音楽Ⅰ声楽 79名
- ・時期 2011年11月15日, 21日
- ・方法 調査曲を一人で歌う。
- ・調査曲 ア. 33b イ. 41a ウ. 43e
- ・調査資料

#### 1) 受講者

- A. 修得状況記録 ※1
- B. 課題に対しての取り組み(楽譜書き込みと文章) ※2

#### 2) 指導者

- A. 課題歌唱記録(楽譜への書き込み、録音)  
楽譜 [1] [2] [3]

### Ⅳ. 『コールユーブンゲン』課題曲について曲の特徴と受講者、調査結果

#### ア. 課題曲33b 楽譜 [1]

##### (1) 特徴と指導上の留意点

##### 1) 特徴

3/4拍子、16小節。切分音の練習(切分音は音符の組み合わせが種々で幾つかのパターンがある)。これは『コールユーブンゲン』第十一章(11頁参照)に示されているようなものから、『コールユーブンゲン』第二十二章(33頁参照)のように発展し、小さい切分音になることで、リズムのカウントが困難となる。切分音も種々の音符によるもの、休符によるものがあり、弱拍と強拍の移動を細かく学ぶ必要がある。また3度音程の進行も音域の広がりとともに上行、下行での発声上の問題もある。




#### 楽譜 [1] コールユーブンゲン』課題 No.33b

### 33b

既習の切分音（本論文5頁19行）について『コールユーブンゲン』11頁引用※

# 第十一章 切分音 (Synkopen)

弱拍と次に来る同じ高さの弱拍とが合して一つの音になるとき弱拍が強拍に変化をする。この音を切分音という。

例、すなわち  のアクセントが  のように移動し  となる。

切分音には、その内にある強拍のアクセントがつく。このアクセントは初めについていて切分音の途中につくことはない。

『コールユーブンゲン』33頁引用※

## 第二十二章 更に小さい切分音（小拍子切分音） (Synkopen Kleinerer Gattung) (Gliedsynkopen)

既習の切分音（2/4、3/4、4/4拍子の四分音符切分音、2/2、3/2、4/2拍子の二分音符切分音）は、拍からできていた。少なくとも完全な拍から始まっている。この切分音の内に含まれている両部分は拍節によって表されている。この章では、小拍支からできている切分音が出て来た。2/4、3/4、4/4拍子の八分音符、2/2、3/2、4/2拍子の四分音符の切分音）この場合は、切分音の内の強拍だけが拍節で標示される。

### 2) 指導者の留意点

- ・リズム（タイ、音符、休符から作られる切分音）
- ・音程（音の2度以上の跳躍）

## (2) 調査結果 グラフ1

グラフ1は音程・リズムに分けて楽譜〔1〕の各小節ごとに3人の指導者が完全にできた場合を3、不完全な場合を2、全くできていない場合を1とした。3人の指導者が3・2・1の3段階で各学生の録音データを聴取、評点化し、9点を100%として百分率表記している。（グラフ2、3の表記についても同様）

### 1) 考察

全体からみるとリズムでは前半は比較的安定していて100%に近い状態で推移している。音程は全体的に不安定で特に歌い出し①は85.5%で良くない。歌い出して④⑤ではやや取り戻すが、後半はリズム、音程ともに⑥～⑧にかけて下降している。また⑥以降はリズムと音程と同じ動きをみせている。

表3は受講者の学びの過程を記述した分から、5つの例として挙げた。これをみると、曲の特徴をよく把握して取り組んだ様子が示されている。

## イ. 課題曲41a 楽譜〔2〕

### (1) 特徴と指導上の留意点

#### 1) 特徴

2/4拍子、16小節。付点音符の連続と6度音程の跳躍が要所にでてくる。特に付点音符のカウントは難しく、理解をするためには指導上の言葉かけが重要である。

グラフ1

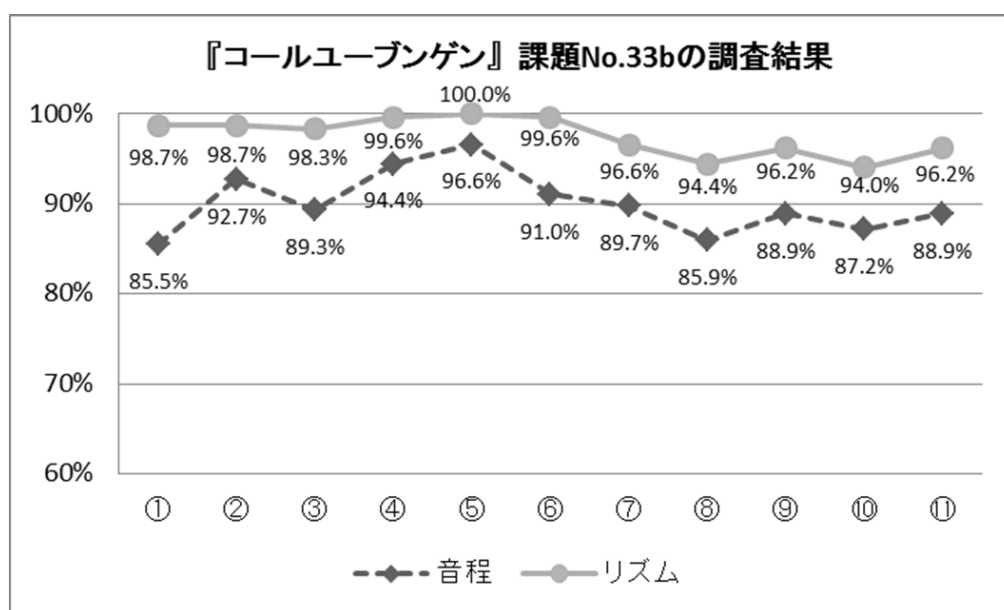


表3 『コールユーブンゲン』課題 No.33b の修得状況記録

33b	練習方法や注意した点	学んだこと	課題に対しての取り組み
学生A	・ピアノで弾いて歌った。・友達と歌い合った。	・ブレスの場所と延ばす位置に注意する。	ブレスと休符に気をつけた。また、リズムが裏拍になるのでそこも気をつけた。
学生B	・ピアノで音を確認しながら歌った。・シンコペーションのリズムやタイの長さを気をつけた。・息継ぎ(ブレス)の位置を気をつけた。	・音の長さに気をつける。・音程を高めにとる。(8小節目のソの音など)・ブレスの位置でたっぷり息を吸う。	5小節目のミ、8小節目のソ、11小節目のシの音程を意識した。シンコペーションのリズムを正確にとれるように、拍を意識した。タイの部分の長さを正確にするために、タイを外して練習した。
学生C	・タイや休符に気をつけながら練習した。	・2段目の真ん中のところのリズムが違っていたので気をつけたい。ミのタイのところも。・ブレス！！	音の上がり下がりが激しいので音程に気をつけた。また、タイが付いている所はちゃんとのばした。
学生D	・ピアノに合わせて。・リズム、拍のとり方。	・シンコペーション	シンコペーションの曲だったので、拍をとりながら歌うことや、スラーが付いている所の音の長さが難しかったが、裏拍もとりながら練習したら歌えるようになった。
学生E	・息継ぎやリズムに注意して練習した。	・1段目の最後の小節の8分休符を忘れないように。	息継ぎ、リズムに注意。7～8小節目のレーソの音程が下がらなかった。10小節目のレ、12小節目のミが上がりきれなかった。これらの音程がずれやすかったので気をつけた。

## 2) 指導者の留意点

- ・付点のリズム
- ・6度音程の跳躍

付点音符について『コールユーブンゲン』17頁、43頁の一部を引用※

第十五章では、二拍以上の拍が一音符となった場合、付点音符、スラー、切分音の新構造が示されている。ここでの付点音符は $\text{P}^{\cdot}$ である。第二十九章では、 $\text{P}^{\cdot}$ や $\text{P}^{\cdot}$ がでてきて、拍のとり方が難しくなっている。ここでの練習は $\text{P}^{\cdot}$ のような付点音符の練習となる。よってリズムを正しく練習することは困難であるから注意深く学習しなければならない。例えば、 $\text{P}^{\cdot}$ のリズムを練習することから始めると良い。

## 付点リズムについて

Punktierter Rhythmus [独] dotted rhythms [英]

3対1の比率による長短2つの音符の配列、あるいはそのような配列の連続にもとづくリズム型。

♪や $\text{P}^{\cdot}$ および $\text{P}^{\cdot}$ など。付点リズムは中庸な動きや急速な動きにおいてとくに効果的である\*<sup>1</sup>。付点リズムの転回、つまり1対3の比率による音符の配列をロンバルディア・リズムと呼ぶ。フランス風序曲の緩徐部分では、付点リズムが一般的特徴となっている。それを書かれたとおりに演奏するのか、あるいは複付点として演奏するのかという問題については、当時の資料において諸説があり、現代の慣習においてもさまざまな解釈がうかがえる。

『メッツラー音楽大事典』より引用※

以上のように付点音符の解釈は、音楽によって柔軟な解釈となっている。よって、\*<sup>1</sup>で示されているように、本論文の指導においては、速度を考慮して

## 楽譜 [2] 『コールユーブンゲン』課題 No.41a

## 41a

歌わせることが大切である。

## (2) 調査結果 グラフ2

### 1) 考察

全体からみるとリズムも音程も不安定である。特に①②⑥⑧の音階が80%を下回っている。①～⑧までリズムに関して大きな変化はなく、同型のリズムであることから、最初にきちんととれないとそのままになっている。特に②⑥については①⑤が同じ旋律であることから単純に混同するケースが多くみ

られた。⑧は音程をとるのが難しい箇所である。

表4は受講者の学びの過程を記述した分から、5つの例として挙げた。これをみると、曲の特徴をよく把握して取り組んだ様子が示されている。ただ、付点音符に関してはリズムの持つ比率に対する理解が異なることが分かる。『メッツラー音楽大辞典』の付点リズムについて記載されている内容を指導者、受講者が十分理解して表現することが大切である。

グラフ2

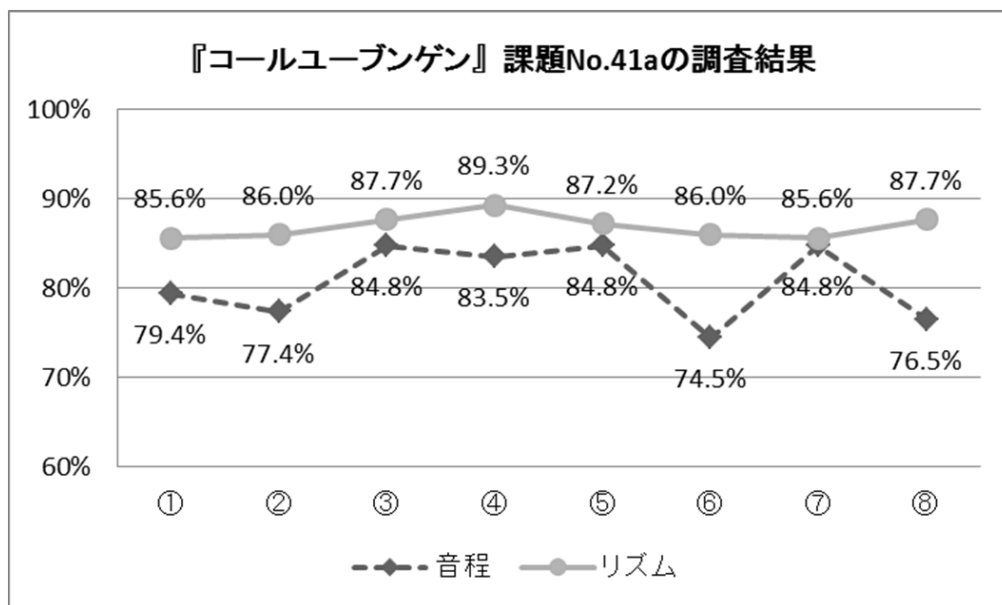


表4 『コールユーブンゲン』課題 No.41a の修得状況記録

41a	練習方法や注意した点	学んだこと	課題に対しての取り組み
学生F	・音程。・ピアノと合わせて歌う。・手とピアノの音を合わせて歌う。・手と合わせて歌う。	・1段目2～3小節目の音程。	高い音から低い音へ下がる所。ブレスの位置を間違えないようにすること。低いソの音。
学生G	・全部16分音符に分割して練習した。	・音が上がりきれてないところがあるので気をつけたい。	付点の音符を16分音符に分割して練習した。
学生H	・リズム確認。→ピアノと一緒に歌ってみる。→音を正確に聴く。→ところどころピアノで弾く。 ・1段目4小節目のミ、ソの音程。・2段目4小節目のシ、ソの音程。	・ソの音。・お腹の支えが弱い。	下げるところは下げ、上げる所はしっかり上げるように注意した。出だしの音をきちんと出すように注意した。ミとソが苦手なのでそこを重点的に練習した。
学生I	・ピアノで練習。・付点のリズム。・6、7、15、16小節の3度と6度の音程を正確に。・6度の音程は上がりきることを意識する。	・付点のリズムを正確にとる。(全てつなげて歌わない) ・低い音の音程。	2拍子の中でのスキップのリズム取りや、付点のついた分、音符をのぼすことを気付けて練習した。スキップのリズムがはっきり分かるようにメリハリをつけた。
学生J	・ピアノに合わせながら。・リズムに注意した。・6度の音程、最後の小節の減5度の音程に注意した。	・リズム。(跳ねる感じで) ・6度の音程	・リズムに気をつける。・2段目が1段目と同じにならないようにする。・最後から4小節目の所を音を間違えないように。・6度の音程などの音が飛ぶ所、半音の所に気をつける。・最後から2小節目の音程に気をつける。

## ウ. 課題曲43e 楽譜 [3]

## (1) 特徴と指導上の留意点

## 1) 特徴

6/8拍子, 8小節。複合拍子の取り方。高音が2点二, 2点ホがでてくると, 4度音程跳躍での上行, 下行が伴っている。

## 2) 指導者の留意点

- ・拍子 (複合拍子)
- ・タイ
- ・4度音程

複合拍子の曲はすでに修得していることからその

例を挙げる。

楽譜 [4] 『コールユーブンゲン』 28b 第十九章  
26頁引用※

## (2) 調査結果 グラフ3

## 1) 考察

④のリズムは全体からみると92.3%と低くなっていてタイと付点音符により, 拍子感がなくなってきちんと取れていなかった。③⑥の音程が85%以下となっている。このことは2点ホという高い音があることと, 二音間の音の隔たりが大きく, またそ

楽譜 [3] 『コールユーブンゲン』 課題 No.43e

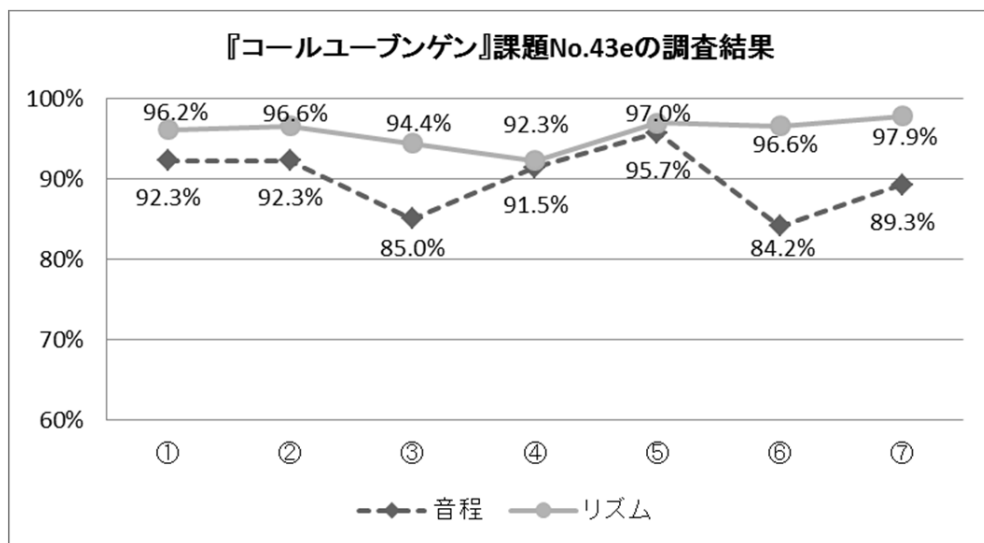
43e



楽譜 [4] 『コールユーブンゲン』 No.28b (複合拍子)



グラフ3





の形が数回出てくることが原因であると考える。

表5は受講者の学びの過程を記述した分から、5つの例として挙げた。これをみると、曲の特徴をよく把握して取り組んだ様子が示されている。特に楽譜[3]の④の箇所のタイを含む、拍の取り方を注意したのが分かる。他、複合拍子の取り方を意識したのが多く見られた。受講者によっては自分なりの練習方法をみつけて練習したケースも見られた。

## V. まとめ

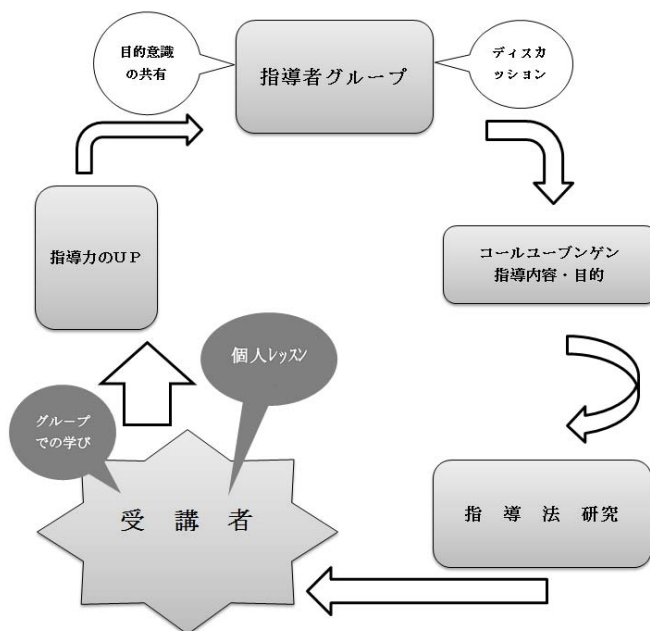
今回の『コールユーブンゲン』指導での調査結果から、楽譜に忠実に歌う為に、理論的理解と実際の演奏表現とを一致させるための説明や相互理解の難しさを痛感した。

その中でも、指導者の指示したことを、受講者自らの方法で取り組んでいた姿もあり、これは歌うことに対して、自らの身体で理解できる言葉や方向づけを工夫して歌の練習にあたったことが、自学自習

表5 『コールユーブンゲン』課題 No.43e の修得状況記録

43e	練習方法や注意した点	学んだこと	課題に対しての取り組み
学生K	1. ピアノと一緒に歌う。2. 一人で歌ってみて、あやしい所はピアノで弾きながら歌う。3. ピアノで確かめる。 ・拍子のとり方。・2段目1、2小節のリズム。	・拍子のとり方。・2段目1、2小節目の最後が速くならないように。	数え方、半音、ブレス、リズム、休符に注意して歌う。高いミと、2段目1小節目のドの長さに注意。
学生L	リズムに気を付ける。	2段目の1小節目と2小節目のタイが短いのでもう少しのばす。	タイの所の拍を間違わないように、少しゆっくりめに歌って練習した。あと、自分で指揮をとりながら歌ったりした。
学生M	ピアノに合わせて苦手な所は2音ずつなどに区切って。	最後に音程を気にしすぎてリズムがあやふやだったので完璧にしたい。	音をのばしすぎないように、最初は休符にも前の音を入れて歌った。その後、休符に戻して練習した。
学生N	片手で2拍とってもう片方の手で6拍とってリズムをとった。	リズムのとり方が難しいことを学んだ。	・付点のリズムに注意した。・2段目の拍のとり方に注意した。
学生O	・ピアノに合わせて。・メトロノームと一緒に。・友達と一緒に。	リズムをきちんと拍にはめるのを気をつけたい。	拍の長さに気をつけて息継ぎの場所にも注意して歌った。

図1 指導者と受講者との関連図



の徹底とともに、記述によって発見できた。

そこで、今回の研究によって、指導者と受講者との関連図を作った。図1のような循環が常にあること、そしてスムーズな循環を保つためにはしっかりした目標をもち、受講者の立場にたって、授業の展開がなされることが望ましい。『コールユーブンゲン』指導での歌唱力育成を目指し、指導者と受講者との関連図を示す。

『コールユーブンゲン』による基礎指導で、読譜から歌唱と進める際、音程やリズムについて、楽譜に忠実な歌唱を目指した指導を徹底していくことの大切さを強く思う。

そして、この基礎指導『コールユーブンゲン』の修得から、保育現場では歌唱指導は必須であることから、子ども達に多くの歌を歌って聴かせて、歌に関心を持てるように、また、歌うことの楽しさについて教えてもらいたい。

そのためにも楽譜を読む力を養い、表現力を高めていき、作られた歌のもっているそれぞれの美しさをきちんと模範唱出来るようにしてもらいたい。

## 引用文献 ※参考文献

- ※『コールユーブンゲン』（合唱教本）巻1 城田又兵衛  
解説 1949年 音楽之友社
- ※メッツラー音楽大事典 DVD 2006年 教育芸術社  
「保育者養成における歌唱指導についての一考察  
『コールユーブンゲン』指導の調査・分析」笠井キミ  
子 久原広幸 柴田万代 2012年 中村学園大学・中  
村学園大学短期大学部 研究紀要第44号
- 新音楽の授業づくり 音楽の授業づくり研究会編 2009  
年 教育芸術社
- 21世紀の音楽入門2 有賀誠門ほか 2003年 教育芸術  
社
- 21世紀の音楽入門3 石澤真紀夫ほか 2003年 教育芸  
術社
- 21世紀の音楽入門4 石澤真紀夫ほか 2004年 教育芸  
術社
- 21世紀の音楽入門5 小沼純一ほか 2005年 教育芸術  
社